

地域の皆さまと病院をつなぐ

GOROMARU DAYORI

# ごろまるだより

2020 Winter

冬号

社会医療法人 志聖会

総合犬山中央病院 広報誌

2020年1月1日発行 通巻114号



新年のご挨拶

理事長 **竹腰 篤** 院長 **齊藤 雅也**

写真：眼科部長  
高橋朝彦

特集

現場最前線に聞く

**より正確で質の高い検査をめざして 検査機器を一新しました**

インタビュー：**加藤 敏晴** (検査科 科長) **田中 美恵** (検査科 副科長)

特集

**「冬の水分補給」って何だろう？ 旬の野菜でヘルシーライフ**

特集

# 新年のご挨拶

理事長  
竹腰 篤

あけましておめでとございます。

令和という新しい元号に変わり、新しい時代の幕開けとなりました。

世界、日本を取り巻く環境の変化は著しく、

I T革命、働き方改革など刻々と変化しております。

時代の流れに即した歩み方が求められるとともに

その時代に対する姿勢を試されているのではないかと考えます。

昨年はラグビーW杯2019日本大会で日本国中が大いに盛り上がり、

ジャパン(日本代表)、海外では『BRAVE BLOSSOMS(桜の勇者たち)』とも呼ばれますが、

チームの躍進に大いに感動し多くの勇気をもらいました。

ノーサイド精神、プライド、感謝等多くのことをあらためて学びました。

最もここに響いたことは『ONE TEAM』です。

これはスポーツに限らずわれわれの人生、社会にも通ずることばであるとおもいます。

この地域、主役である市民はもとより行政、産業、医療・福祉すべてONE TEAMになる、

非常に理想的なすがたではないでしょうか。

わたしどももあらためてこの地域にTEAMの一員として貢献できるように

がんばりたいとおもっています。

計画中の新病棟だけでなくソフト面をさらに充実させていくことで生まれ変わり、

地域への貢献に繋がると信じております。

これからのわたしどもの少しづつでも邁進していくすがたを

あたたかく見守って頂ければ幸いです。

みなさまにとってもすばらしい年になりますようお願いしております。

# 新年のご挨拶

院長  
齊藤雅也

あけましておめでとうございます。

2020年、令和2年を迎え、一言ご挨拶を申し上げます。

本年は東京オリンピックが開催される年であり、

海外から我が国を訪れる人は益々増えていくものと思われれます。

最近では年間3000万人を超えるインバウンドがあるとのこと。

犬山市にも全国から50万人ほどの観光客が集まるのですが、

外国人の姿もよくお見かけするようになりました。

犬山の文化を知っていただき、多くの人々との交流が進むことは、

結局は自分たちにとっても新たな刺激となる素晴らしいことだと考えております。

さて、当院は1982年に開設し、本年度38年を迎えます。

最近では建物の老朽化が目立つようになってきたため、

昨年からは病院新築プロジェクトを練り、

2023年には新病棟を完成させる予定です。

現在、建設委員会でも多くの問題を検討しているところではありますが、

院内の意見集約のみならず、

外来にはご意見箱を設けて患者さんや地域の方々からも新病院へのご要望、

ご意見をいただくようにしました。

どうぞ皆様のご意見をお寄せください。

本年は病院新築プロジェクトを進め、

新たなチーム総合犬山中央病院を創っていく所存です。

皆様のご指導、ご鞭撻を改めてお願い申し上げます。

現場  
最前線に  
聞く

Vol. 14

# 検査機器を一新しました

より正確で質の高い検査をめざして

**検査科は皆さまの健康を  
見守る検査の専門家集団です。**

当院検査科には、臨床検査技師17名、臨床工学技士6名、採血・採尿の受付職員2名が在籍<sup>※</sup>。臨床検査技師は、医師の指示のもと、365日24時間体制で、患者さんの身体の状態や病気の原因、重傷度や緊急性、治療効果などを評価するための検査を実施しています。一方、臨床工学技士は、血液浄化装置、人工心肺装置、人工呼吸器などの生命維持装置の操作・管理を行い、患者さんにいつでも安心して使用できるようにしています。

**検査機器を一新し  
速く正確な検査データを提供**

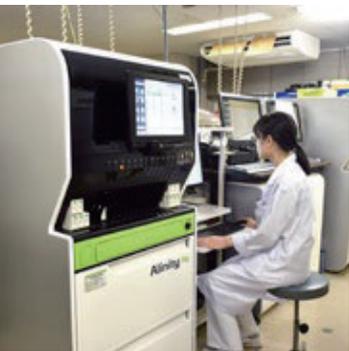
検査科では、この秋、検査機器の全面的な更新を行いました。多彩な機能を持ち、自動で採血管にラベリングを行う「採血管準備装置」をはじめ、「全自動総合血液学分析装置」、「検体前処理装置」、「尿中有形成成分分析装置」、「血液ガス分析装置」、「輸血検査装置」などの検査機器、臨床検査システムを更新・導入したことにより、従来にも増して高精度かつ迅速な検査が可能になりました。私たち検査科は高度医療を支えるチーム医療の一員として、これからも正確で良質な検査結果の提供に努め、患者さんの治療に貢献したいと願っています。



総合犬山中央病院  
検査科 科長  
臨床検査技師  
**加藤 敏晴**

総合犬山中央病院  
検査科 副科長  
臨床検査技師  
**田中 美恵**

総合犬山中央病院検査科では、2019年9月より検査機器および検査システムを一新。業務の効率化と精度管理の充実をはかり、より迅速で正確な検査結果を医療の現場に提供できるようになりました。あわせて、現在、検査科が力を入れている睡眠時無呼吸症候群の検査についてもご紹介します。



全自動総合血液学分析装置  
分析時間がこれまで比べ大幅に短縮。



採血管準備装置  
採血管準備におけるミスを無くし、準備に掛かる時間を短縮。

## 睡眠と呼吸の質を調べる 「終夜睡眠ポリグラフ検査」

生活習慣病の合併リスクや昼間の眠気、意欲の低下にもつながる睡眠時無呼吸症候群。当院では、外来で問診や簡単な検査をし、睡眠時無呼吸症候群の疑われる方は、まず自宅でいびきや呼吸をチェックする簡易モニター検査を行います。その結果、より詳しい検査が必要とされた場合は、睡眠の質や呼吸状態をチェックする「終夜睡眠ポリグラフ検査」を行います。詳しくは当院までお問い合わせください。



まずは自宅に装置を持ち帰り、右のように装着して就寝して頂く簡易モニター検査を実施します。

## 医療現場の ③ 臨床検査技師 プロフェッショナル

患者さんの身体の状態や病気の原因、重症度や緊急性、治療の効果などを評価するために、身体や臓器の「動き」を調べる検査を臨床検査といます。

臨床検査技師とは、医師の指示のもとに、各種の臨床検査を行う専門の技術者(国家資格)です。



### 臨床検査技師の業務は大きく「検体検査」 「生体検査」の二つに分かれています。

#### ● 検体検査

患者さんから採取された検体(血液、尿など)を分析し、肝臓、膵臓、腎臓、心臓などの臓器や血液などの状態、感染症(肝炎ウイルス、インフルエンザウイルスなど)や病原菌、腫瘍細胞の有無などの検査を行います。

#### ● 生体検査

生理機能検査とも言われ、直接患者さんに触れて、患者さんの体から得られる情報を記録、または体の内部を画像にして検査を行います(心電図、呼吸機能、脳波、超音波など)。

これらの検査で得られるデータは、患者さんの健康状態の確認や、異常の原因が何なのか(病気の診断)、治療の状態はどうか(治療の効果)などを判断するために必要不可欠な情報です。臨床検査技師はこれらのデータを科学的に分析し提供することで、患者さんの診療に関わっています。

また、予防医学(健診センター)、健康教育(糖尿病教室)、感染対策、針刺し事故防止、栄養管理サポートなど多職種とも積極的にに関わり、チーム医療を支えています。

近年では取り扱う検査も多岐にわたり、さまざまな分野の認定資格が設けられるなど高い専門性も必要とされています。院内では毎月科内勉強会を開催し、知識や技術のレベルアップに取り組んでいます。また、院外で開催される研修会などにも積極的に参加し、新しい知識や技術の習得にも努めています。



全自動糖分析装置



心電図



超音波検査

# 「冬の水分補給！」って何だろう？



暑い夏の間はこまめに水分補給をしますが、寒くなる冬は水分補給のことはあまり気にしません。しかし、冬は空気が乾燥して、さらに室内もエアコンなどの暖房で乾燥が進みます。そのぶん、呼吸や皮膚から失われていく水分量も増加します。しかし冬は水分を失っている自覚が少ないため、知らず知らずのうちに水分不足の状態に。健康維持のために、冬も水分補給を心がけることが大切です。

## とくにお年寄りや乳幼児は、冬も水分補給を意識しましょう。

高齢の方は、のどの渴きを感じにくく、また体を冷やしたくないために飲料を減らしがち。また、トイレが心配で水分補給を避けてしまう傾向もあります。また乳幼児の場合は、体重の70～75%が水分(成人は60%前後)で、冬でも汗をかきやすく、水分不足の影響を受けやすいのです。こうしたことから、お年寄りや乳幼児は冬でも脱水リスクと隣り合わせといわれ、意識した水分補給が求められます。

## 風邪、インフルエンザ対策にも水分補給が大切。

水分をこまめにとり、のどの粘膜に潤いを。人は、呼吸することで常に空気中のほこりや細菌、ウイルスを吸い込んでいます。こうし



た異物をガードしているのが、鼻やのどの内壁を覆っている粘膜と線毛、粘液。吸い込んだ異物は粘液で捉えられて、線毛が体外に排出していきます。ちょうど大玉ころがしのようによく調整して線毛が動くのです。この粘膜と線毛の弱点は「乾燥」と「寒さ」。そのため、風邪やインフルエンザのウイルスを排出して予防するために、冬もこまめな水分補給でのを潤すことが大切になってきます。

## 脳梗塞や心筋梗塞のリスクを下げるためにも、水分補給が大切です。

冷たい空気に交感神経が刺激され血管が収縮し、血圧を上昇させる冬。さらに、水分摂取量が少ないと血液の粘度が高くなり、血栓ができやすくなります。そのために血管が詰まりやすくなって、脳梗塞や心筋梗塞のリスクを高めることとなります。特にエアコンによる暖房の効いた部屋に長くいたりするときは、こまめな水分補給が大切になってきます。

### 豆知識

#### 上手な水分補給のとり方とは…

水分をとるときは、一度にたくさん飲むのではなく、少しずつ回数を分けてこまめに飲むようにします。1日にコップに軽く1杯くらいの水分を8～10回くらいに分けて飲むのがよいでしょう。特に心がけたいのが、寝る前と朝起きたとき、入浴の前後、運動の前後の水分補給です。就寝前と朝起きたときは、湯冷ましが飲みやすいですね。





旬に収穫された野菜は栄養価も高く、しかも経済的。  
今回は、11～3月に旬を迎えるブロッコリーを特集します。

© shibachuu - stock.adobe.com



### 簡単レシピ

## ブロッコリーとエビと しいたけのオイスター炒め



## ブロッコリー

野菜の中でも横綱級の栄養価を誇るブロッコリー。くせが少なく、茹でてサラダにしたり、蒸したり、炒めても美味しく食べられます。茎も、皮を厚くむいた白い部分はおいしくいただけます。

### 栄養

ビタミンCと鉄分の含有率は野菜の中でトップクラス。カロテン、葉酸、ビタミンE、食物繊維も豊富です。カロテンの一種ルテインは抗がん作用を発揮します。

### 選び方

房の先のつぼみがしっかりと密になっていて、緑色の濃いもの、茎の切り口がみずみずしいものを選びましょう。

### 保存方法

ラップに包んで野菜室に保存しますが、あまり保存がきかないので、余ったら新鮮なうちに少し固めに茹でておいて、冷蔵保存します。



© Hassyoudo - stock.adobe.com

### 材料(2人分)

ブロッコリー	1/2房
むきエビ	10～12尾
しいたけ	4～5個
にんにく(みじん切り)	1片
ごま油	大さじ1
片栗粉	小さじ2
酒	小さじ1
オイスターソース	大さじ1
中華だし(鶏がらスープの素)	小さじ1
酒	大さじ1

調味料

### 作り方

- ①ブロッコリーは小房に切り分けて、1分半茹でてざるに上げます。
  - ②そのお湯を使って、むきエビをさっと茹でます。さっと茹でたエビは、酒小さじ1と片栗粉小さじ2と混ぜておきます。
  - ③フライパンにごま油、にんにくを入れて30秒ほど熱したら、一口大に切ったしいたけを入れて炒めます。
  - ④しいたけがしんなりしたら、むきエビ、ブロッコリーを入れて炒めます。
  - ⑤2～3分炒めたら、調味料を回し入れて、1～2分炒めます。
- ★ブロッコリーが柔らかめがいい方は茹で時間を2分半にします。

参考：独立行政法人農畜産振興機構「野菜ブック」  
独立行政法人農畜産振興機構「1月の野菜」

医師紹介

古市 昌宏 血管内治療脳神経外科部長



ふるいち まさひろ  
1994年 岐阜大学  
医学部卒業  
趣味は映画鑑賞

脳卒中の患者さんに対する診療を専門に行っております。内科的治療に加え、外科治療が必要な場合には患者さんとのご相談により手術を行っております。脳卒中の救急医療については、当院は一次脳卒中センターに認定されています。犬山市を中心とした地域の医療機関や救急隊からの要請に対して、脳卒中が疑われる患者さんを広く受け入れており、急性期脳卒中診療担当医師が患者さんの搬入後、可及的速やかに診療（静脈注射での血栓溶解療法を含む）を開始できる体制を整えております。

主に脳血管内治療を担当しており、くも膜下出血における脳動脈瘤コイル塞栓術、頸動脈高度狭窄におけるステント留置術などの「切らない」手術も行っています。今後も質も高い医療を安心して受けていただける診療科を目指し、地域医療に貢献したいと考えております。

訪問看護ステーション開設

2020年より

2020年、訪問看護ステーションを開設いたします。2016年に訪問看護室を立ち上げてから3年が経過いたしました。これまで以上に地域の皆さまに貢献できるよう、この度「訪問看護ステーション」として新たにスタートいたします。

利用者・家族の皆さまが安心して在宅療養できるよう、多職種と連携し、ひとりひとりの想いに寄り添った丁寧な看護・支援を目指します。



お問い合わせ先

☎ 070-5443-2216

受付時間

【平日(月～金)】8:30-17:00  
【土】8:30-13:00(日祝はお休みです。)

当院のロゴマークを作成しました



社会医療法人 志聖会

総合犬山中央病院

「信頼」と「思いやり」をテーマに職員公募により、作成いたしました。病院名と共に、このマークも患者さん、地域の皆さまに親しんでいただけるようにと願っております。

救急対応体制  
充実の  
お知らせ



地域の皆さまの医療を守る社会医療法人として、**24時間365日**救急を受け付けています。特に、平日、月曜日から金曜日、午後5時から9時前の時間帯は対応する医師を充実させ、幅広く救急の要請に応えております。

基本理念



私たちは、医療の使命に情熱を燃やし、  
地域の人々が安心して暮らせる、  
心の支えとなる病院を目指します



社会医療法人 志聖会

総合犬山中央病院

〒484-8511 愛知県犬山市大字五郎丸字二夕子塚6  
TEL.0568-62-8111  
<https://www.inuyamachuohospital.or.jp>

撮影後記

表紙写真:「木曾駒の朝」

木曾駒の冬景色を狙おうと年末の早朝にゴンドラに乗り込んだ。しかしながら天候は残念ながら曇り。千畳敷に降り立つと空は一面分厚い雲で覆われていた。歩きまわって樹氷を身にまとった低木を狙っていると、偶然にも雲の薄くなったところから軟らかい太陽の光が透けて差し込んできたのだ。いわば自然のデフューザーの太陽だ。背景にアクセントが付き、木に立体感も出てきて運に恵まれたカットとなった。

(写真:眼科部長 高橋朝彦)